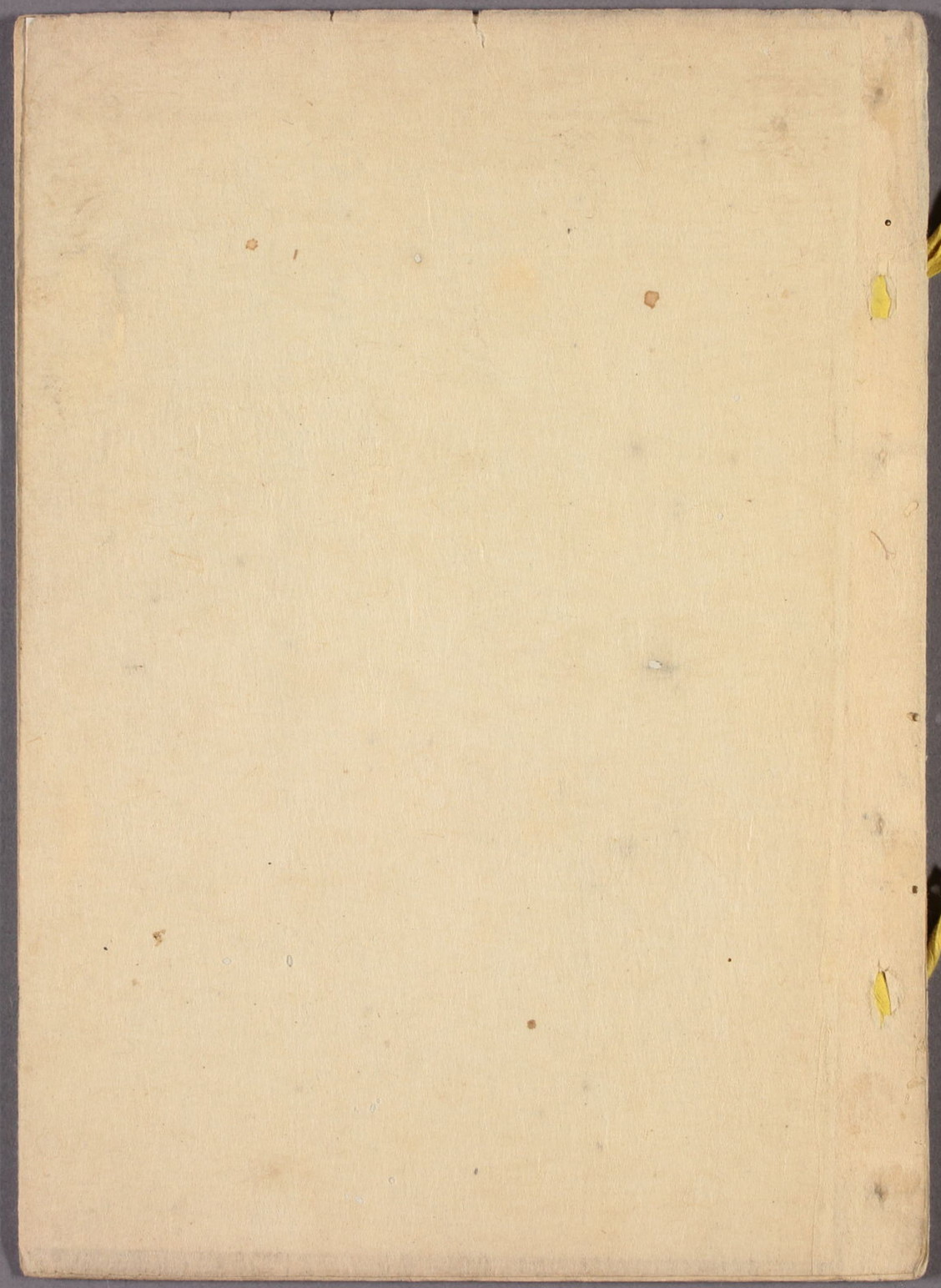

看真角序

能諧乃集つくる事古今にかたりつたへ道に於て起通き時なれや幻術の事一切してそれ自ら魂を入さる通をゆめゆめ極あらずして似るを面白く久しく世にもてはやされもてなんとうたて不愛此愛

を高くむ五德ハいふまでも
法ゝをこゝ法華経なる
こたり彼五りの上人の骨肉
てんを作りて弾いて弾いて純
なる笛をかやうにたん結る
とゝさ純なる人まい成て結道
ゆゝを五の弾の音純さ成は
反魂乃法はゝをゝ結ふ

雜水のかゝとゝハをこゝ
こゝ乃をさ牡丹のゝ乳ゝまゝ裸　伊賀　其角　東来

草津

嶋田をゝ乃ゝいのゝこゝれ　尚白
神道水はゝをゝゝる法師　珎碩

霜月朔日

搭まゝゝ乃ゝ物ゝ　赤柏　伊賀　良品
水を月ゝを神ゝ水仙ゝ　羽前坂田　孟王

[illegible]　王[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]

露[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]

草[illegible]

[illegible]　東[illegible]
[illegible]　其[illegible]

病後

[illegible]　百合の[illegible]　大坂　何処
[illegible]　百合の花　乙刀

機嫌[illegible]を作りて

子やなんと其子の母を蚊の喰と　嵐蘭

餞別

[illegible]蚊屋もつるぬ蔵の宿　藤所　里東

[illegible]
[illegible]
[illegible]

きりぎすの穀ぬくほうあつかりし　野童

夕月よりうれてしまう暑さかな　羽紅

青草に湯入おろしあつさかな　江戸　巴山

千子の夏まちかねをきてこの国うの玄蕃つくしへ下りける　伊勢

世を人のこの神を今代蕉翁千　芭蕉

水無月や朝めしくあぬ夕ぞこみ　嵐蘭

さくさくと松蕨煮ゆる夏の宿　宗沢

すずしさや鉢ぬ行ひの迹　元雅

扇ぬ雲つくく四方のまくらかな　千那

白鉢や四人乃影紙屋粮　曽良

夕涼や坂蕨ひるまの道　去来

くしゃみ洛よりくく

西ぬ三の今ぬ三比数ぬ坂ぬ　大坂　之道

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の音や[illegible]巖雨　史邦

[illegible]や藪の内より和あり　旦来

秋風や[illegible]の[illegible]うゝ[illegible]　三川　子尹

遠いあの親のこゝろやすき原　羽紅

八瀬おりに逢ひして業[illegible]の文をけるあり

まるき拐乃[illegible]　乙州

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　去来

草刈[illegible]

元禄二年翁[illegible]

[illegible]の郷[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の露　平田　李由

いつくしみたゝ[illegible]の[illegible]　曽良

桐の[illegible]の[illegible]の内　芭蕉

百舌鳥なくや入日さす松原　乙州

初雁[illegible]　亡人　落梧

雲母まで

病屋に寝ざめ聞て蛙かな　芭蕉

法花の船を小海老よまのるい　同

加賀の小雪こゝ元禄四乃秋社の宝物として二文雲
うゝ面うゝ草乃ゝ同ゝ
錦のゝしゝ雲きゝ雲なゝ
ゝゝのわゝゝ縫ゝ地ゝ

むさんやし月甲の玉はきわくす　芭蕉

蒙島や二ゝ蒙ゝ地中の雲ゝ　尚白

なりしゝてこゝしゝゝゝゝゝゝゝ月の面　尚白

向の能ゝゝゝ月ゝゝゝゝゝ　昌良

元禄二年つゝゝゝ水ゝ
月をゝゝて氣比の明神ゝ
行ゝゝゝゝゝゝ古例ゝ

有清ゝ越ゝのゝゝゝゝ　かゝゝ　芭蕉

仲秋の望猶子を送葬て

うゝ夜の月ゝゝゝゝゝゝゝゝ送　去来

明月やゝゝゝゝゝ茶ゝゝゝゝ　膳所　昌房

月[illegible]人の[illegible]　　羽紀

僧正の[illegible]小屋[illegible]　　尚白

初瀬や鳴[illegible]の滝[illegible]　　凡兆

一戸や[illegible]もやこ[illegible]人　　去来

稗の[illegible]の迹[illegible]　　越人

滝糟や[illegible]食[illegible]　　正秀

[illegible]　　嵐蘭

一鳥不鳴山更幽

それハうぐいすの[illegible]
郭田秀の[illegible]音　　牧足
[illegible]

花すゝき大名[illegible]　　嵐雪

り[illegible]五日弱[illegible]　　文州

立[illegible]の夕や[illegible]　　凡兆

世の中ハ鶺鴒の尾乃ひ[illegible]　　同

[illegible]奥代歯[illegible]　　荷兮

暗香浮動月黄昏

入相の梅になり込ひゞきかな　風麦

武にはあらねともしく猿亭の
鐫夢

寝られしき窓の細目や闇の梅　乙州

辛未のとし弥生のはしめ
つかたよし野山に日くれて梅
のにほひしきりなりけれは旧友
嵐窓かうたゝねのあやしきを
案内者とかくふるまひつゝ
来れやにほひ侍りても猶
ふきて感動身に志ミて覚
はすくかりなきかれ夜の寺

[illegible]
[illegible]
蕎麦切て又一句しいやほんの物　嵐蘭
百八のうちてはしいや富のもの　其角
ひらり寒の鶴霜ふる日　去來
野畠や屠蘇のけぶり猫の業　史邦
うつ市や雪ふ溝まる家私　嵐蘭
春は明石よりのぼりのをとゝへ　如行

憶翁之客中

春柳かまくれや鯉の住所　伊賀　一喫
雪ふりや鈴ふる場乃すゝ　同　未白
待中乃月月もてやうち月　揚水

同郡より

責めてやいろ〳〵猫の事　芭蕉
うまきなよかまれの切時猫の恋　越人
露沾公にて餘寒の當座　去來

春ふかみ雪のうもれぬ羽越路　亀翁
梅の香ぬしらぬ人をとを三月　高白
出られや梅よあるれることのるけ　亀翁
世をやや幼こうよ物めうる梅　嵐雪
習紫のかるるもあのかすれ　九梅
白魚や法名八十歳のこい合せ　其角
人のまようるる梅の横濱　尾張　松峯
春ふかみ下田義のうれ雛賣　史邦
たうさのあるや軒よの花　羽紅
泥棒や西伏水の蛙つるん　史邦
蛙ごうる木の蕾の行や蛙の巣　昌房
振袖や下屋よりまるる雛　去来
春風やうすれ雛の紙の名　伊賀　萩子
桃柳うらうやをんなの女子　羽紅
うるせ安堵ん　三川　鳥巣

里人の晴蓑しぼる田螺哉　嵐雄

蝶の来て一つ残るや菊の花　半残

帝鳥切て白根の嶽を見る　伊勢　桃妖

いつのたりこそすもしや潦　園風

月の影やこそくれよの親すめ　珠碩

二分の鍋ぬむ春のすめや縁の先　土芳

剪の絶や巣なかりてあり衡　芭蕉

越ちらふ飛深へ明して蕊の
つるのあやうきところ過

とうとうと過るまさけかな　伊賀　利雪

東叡山よあうめ

小坊主や歩まてしまうて　其角

一枝ハ地へめりこうて　尚白

雛の影ゆきこゆるやま桜　九兆

ちんちんと一枝のんちる桜　文艸

月明のつよくよくこ過さうち　史邦

春斎ようまうたハ花の雪　千那

葛城のぬしをうつる

牡丹ちる　あるじの門の　秋の顔　孟蓬

いつの国花垣の庭八うのうち
あるじ乃八幡の社ゝ酒
らまとゝ云伝へ侯
れし

一軍ハ亡れ亡辛の孫ゝ下　同

云文の墓東武谷中にあり
三歳ゝしるれ年の頃ゝ
浅ゝうちぬ墓のあゝ桜　秋垂
行るゝ　ゝかゝ　奴ゝ
つゝゝ　桜をたゝ　綾ゝ
池の墓行ゝ　ゝ

まうでゝ亡吸ゝ野の往還ゝ　園風

知人ゝあゝ　去来

ある僧の嬬ゝ　凡兆

浪人のゝ

冬を春の夜あれゝ　半残

暗きゝ　伊賀　長眉

ゝれゝ奥ゝ

大峯ゝ　奥ゝ　曽良

道灌山のほとり

[illegible]　嵐蘭

[illegible]　羽紅

庚午の歳家を離れ

[illegible]　加賀　北枝

[illegible]　江戸　凡兆

[illegible]　普船

大和の野辺の

草刈[illegible]　芭蕉

山[illegible]　探丸

[illegible]　智月

[illegible]　山川

[illegible]　伊賀　武之

木曽塚

[illegible]　乙刃

春雨降るまゝに初瀬の堂籠　曾良

望湖水惜春

行春や鳥啼き魚の目は涙　芭蕉